



# でんえい会誌 第25号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



## 〈名古屋工業大学の将来ビジョン〉

### 国立大学法人名古屋工業大学学長 鶴飼裕之

今年度から2年間、学長職二期目を務めることになりました。電影会会員の皆様には、日頃のご支援に対して改めて厚くお礼申し上げます。

本稿では、4年間の実績を踏まえながら、名工大の将来ビジョンについて述べさせていただきます。

### めざす教育～工学教育のフロントランナー

少子化時代を迎えるなか、高等教育を取り巻く状況は大きな転換期を迎えています。名工大版理工系人材育成戦略というビジョンの下、わが国で初めて設置した学部・大学院修士6年一貫の創造工学教育課程は、産業界の多様化する人材要請に応えるものです。電気と機械の融合学科の創設も産業構造の変化を見据えたものです。入試制度改革、知識基盤型社会をリードするドクター人材の育成強化、人生100年時代に適したリカレント教育、AI時代に対応できる人材育成など喫緊に対応しなければならない課題は山積しています。課題に着実に取り組みながらも、つねに理想とする工学教育ビジョンを掲げて実践していくこと。工学系単科大学として実績を積み重ねてきた名工大だからこそ可能な目標です。

### めざす研究～工学イノベーションハブ

国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」、「知」、「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい価値を創造し、世界に発信する拠点を形成する。本学がめざすのは、このような「工学のイノベーションハブ」です。研究特区として設置した材料・情報科学フロンティア研究院では、研究ユニット毎に海外の著名大学・研究機関から外国人教員を採用して共同研究教育ネットワークを築いています。今年3月にはウーロンゴン大学（オーストラリア）との間で情報学での共同大学院を設置しました。FAU（ドイツ）とは二国間共同事業を本年度中に提案する予定です。こうした組織的

な国際連携の枠組みを活用しながら、卓越したドクター人材の育成、国際共著論文の増加をめざしています。本学の強みである産学連携においても、これまでのように個々の教員の共同研究を主体とした取り組みだけでは限界があります。教員と企業とのお付き合いの関係から「組織」対「組織」による共創の関係へ。これが、新たな産学官連携のめざすところ。このため、産学官連携センターと大型設備基盤センターを統合し、スピード感とともに信頼感ある産学官金連携機構へと再編しました。

### めざすキャンパス～ダイバーシティ環境

学長に就任以来、男女共同参画推進と留学生の獲得・教育環境整備に関して重点的に取り組んできました。その結果、女性研究者の比率は11%、女子学生の比率は16%まで増加しました。また、世界中から350名を超える留学生が名工大をめざして来ています。3月には国際学生寮(NITech Cosmo Village)がオープンしました。多様な人材との交流を大学の活力にかえるダイバーシティ・インクルージョンキャンパスをめざしています。

めざす教育・研究・キャンパスを達成する大学経営の鍵は、中規模・工学・単科の国立大学としての強みである、迅速な意思決定、外部資金獲得力におけるpower-weight-ratioの高さ、産学連携ネットワークの層の厚さ、学生の質の高さ、ブランド力などを最大限に活かし、スピード感をもって取り組みを実行することにあります。来る少子高齢化時代を見据えた政策の影響により、国公私立の枠を超えた統合再編が予想されるなど、今、大学教育には大きな波が押し寄せています。中京地域に立地する「地の利」を活かし、「人の和」を強固なものにすることにより、名工大は工学系大学として独自の進化をめざしてまいります。電影会会員の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

## <情報科学フロンティア研究院のご紹介>

### 情報工学教育類 徳田恵一(Es59)

(情報科学フロンティア研究院 院長)

本学の教育研究機能の更なる強化を図り、卓越した研究成果と人材輩出する場を構築することを目的として、2015年10月より、ふたつのフロンティア研究院が設置されました。ひとつは材料科学フロンティア研究院(略称FRIMS)、もうひとつが我々電気情報系の教員・大学院生が関係する情報科学フロンティア研究院(略称FRIIS)です。

2つのフロンティア研究院はいずれも、a) 融合研究による新分野の創出、b) 海外機関との国際共同研究の推進を核とした国際的な先端研究拠点の形成、c) 新しい産業分野の創出を牽引するイノベーション・リーダーの育成、等により、地域及び産業の発展に貢献することを目指しています。具体的には、1) 海外著名研究者のユニット招致教員としての招へい、2) ユニット招致教員を中心とした海外研究者による講演会の開催、3) 国際シンポジウムの開催、4) 学内の教員・大学院生・学部生が参加するシンポジウムの開催、5) フロンティア研究院内外での融合研究の促進、等の活動を行っています。海外研究者による講演会のほとんどは、大学院の演習科目「特別演習」に指定されており、大学院生は講演会に15回参加することにより、1単位が得られる仕組みになっています。

特に、情報科学フロンティア研究院では、情報科学と他の多様な学術領域との融合による豊かな生活と安全・安心な社会の実現に向けた革新的な情報技術の創出を目指し、基礎理論から応用技術に至る情報科学研究を進めています。各教員の研究力を活かし、海外の一流研究者25名をユニット招致することにより国際共同研究を推進するとともに、自由な発想に基づいた異分野融合研究を推進しました。これらの共同研究プロジェクトには、多くの大学院生も参加することとなり、国際的な技術・社会動向に対する広い視野と高い研究力をもった学生の育成に貢献しています。

2017年11月には融合研究と博士後期課程進学促進を意識した、ロールモデル講演と修士論文中間発

表会を組み合わせた学内シンポジウム「FRIISシンポジウム」を開催しました(図1)。博士人材として活躍中の関喜史氏(株式会社Gunosy・共同創業者)、塩田さやか氏(首都大学東京・助教)を若手ロールモデルとしてお招きし、博士後期課程への進学への重要性を自身の経験を踏まえてご講演いただきました。また、王建青先生、加藤昇平先生による研究講演を行い、本学における異分野融合研究の最先端をご紹介いただきました。修士論文の中間発表の位置付けのポスター発表は110名を超える参加者の中で行われ、熱心な議論が交わされて時間が足りないほどでした。

今後もこれまでの活動で得られた知見や反省点を踏まえ、国際的な先端研究拠点の形成を目指した活動を推進していきたいと考えています。ご支援のほど、どうかよろしくお願いたします。



図1 FRIISシンポジウムの様子(2017年11月28日)

## 〈ご退任される先生から〉

### 電気・機械工学教育類 岩波保則 (E51)

今春 37 年間を過ごした名工大を定年退職することになりました。昭和 51 年 3 月に本学電気工学科を卒業 (E51)、昭和 53 年 3 月に同修士課程修了、昭和 56 年 3 月に東北大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士) し、同年 4 月に名工大電気工学科助手に奉職致しました。以来 37 年間の母校の勤務を経て、平成 30 年 3 月 31 日をもって退職致しました。昭和 56 年 4 月～60 年 3 月までは電気工学科、昭和 60 年 4 月～平成 16 年 3 月までは電気情報工学科、平成 16 年 4 月～平成 28 年 3 月までは電気電子工学科、平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月までは電気・機械工学科に所属して研究・教育活動を行って来ました。

私の卒業研究はデジタル FM 受信機のインパルス性雑音に対するビット誤り率の計算、修士論文は電荷転送素子を用いた巡回型バンドパスフィルタの実験的研究、博士論文はスレッショルド拡張型 FM 受信機的设计法というものでした。本学奉職後は、環境電磁工学の研究のお手伝いなども行いましたが、一貫して無線 (有線) 通信方式の研究を行って来ました。具体的には、無線 LAN や地上デジタル TV 放送などで用いられている OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplex) 変調方式や第 3 世代の携帯電話 FOMA 等で用いられた CDMA (Code Division Multiple Access) 通信方式のような、いわゆるデジタル無線変復調方式の研究です。このような分野の研究は、携帯電話や無線 LAN など、移動体無線通信の進展に役立つものです。この分野の最近の話題として、5G (ファイブ G) と呼ばれる次世代携帯電話があります。5G は 2020 年 (平成 32 年) の東京オリンピックに実用化を目指し、総務省が所轄官庁となり、携帯電話会社 (キャリア) や携帯製造会社 (ベンダー) が現在盛んに開発を進めています。5G 次世代携帯電話には主に 3 つの特徴があります。第 1 の特徴は、その高速性 10Gbps (ギガビット毎秒) です。これは 4.7G バイトの DVD 映画を 3.76 秒でダウンロードできる速度です。現在サービスされている 4G (LTE Advanced) の 100Mbps (メガビット毎秒) の 100 倍の高速性です。第 2 の特徴は、同時接続端末数が 100 万台/km<sup>2</sup> という高密度性です。これは 1 台/1 m<sup>2</sup> ということで、

現在の 4G が 1 台/10m<sup>2</sup> ですから、100 倍の同時接続数の多さとなります。今後、携帯電話やパソコンなどの他に、機械通信の IoT (Internet of Things) 無線機器が爆発的に増えると予想され、単位面積当たりの同時接続端末数の多さが重要となります。第 3 の特徴は、無線通信の遅延が 1msec (ミリ秒) と極めて短いことです。これは現在の 4G の 10msec に比べ 1/10 で、このような低遅延性の特徴は、建設現場のショベルカーやロボットの遠隔制御などの目的にとって重要となります。またリアルタイム性が要求される ITS (Intelligent Transport System) 通信にとっても重要です。5G は現在、日本、米国、ヨーロッパ、中国、韓国の 5 つのグループが開発にしのぎを削っています。携帯電話の歴史として、1G は 1979 年 (昭和 54 年) にアナログ FM 方式自動車電話として始まり、2G はデジタル化され 1993 年 (平成 5 年) の NTT ドコモの mova (28.8kbps)、3G は 2001 年 (平成 13 年) の CDMA 方式の FOMA (2Mbps)、4G は 2015 年 (平成 27 年) の LTE Advanced (100Mbps) と発展して来ました。2017 年 (平成 29 年) には、総務省が中心となって、5G の総合実証試験が始まりました。東京オリンピックに於いて世界に先駆けて 5G の実用化が期待されます。

私も 5G 関連の研究の一環として、MU-MIMO (Multi User MIMO) と言う、基地局側で多数の送信アンテナ本数 (例えば 256 アンテナ素子) を使い、複数台の携帯電話 (例えば 4 台で各携帯電話は 2 本ずつの受信アンテナを持つ) に高速にダウンロードする無線通信方式の研究を行いました。256 本の送信アンテナ素子をアダプティブアレーとして基地局に配置することにより、4 つの鋭い電波ビームを 4 つの携帯電話に独立に向けることが出来 (ビームフォーミング)、3.7GHz、4.5GHz や 28GHz と呼ぶ SHF (Super High Frequency) 帯の電波の大きな距離減衰を抑えることが出来ます。5G は 30GHz 以上のミリ波帯でも行われ、このような Massive MIMO と呼ばれる技術 (多数の送信素子を持つアレイアンテナを用いて複数ユーザへビームフォーミングにより同時通信する技術) を用いることで、今後新たな周波数帯として期待できるミリ波帯をより有効に活用できると考えられます。私は今まで参加してきた総務省の検討会の議論など

も通し、このような将来展望を実感しています。  
この37年間の名工大での教育・研究活動を通し、昭和60年の博士課程の設置に伴う学科改組の時期に教室会議などで侃々諤々の議論が行われたことや、2005年（平成17年度）に名工大100周年の記念式典がホテル名古屋キャッスルで行われたことなどは、特に印象に残る思い出となりました。今回37年間の長きに渡り名工大に勤務させていただき退職をむかえられたことは、ひとえに名工大教職員の皆様や電影会の皆様を始め数多くの方々のご支援の賜であると深く感謝申し上げます。次第です。  
最後に名工大のさらなる発展、名工大教職員の皆様や電影会の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

## ＜平成29年度の就職状況について＞

### 電気電子工学教育類 就職担当 小坂卓(EJh6)

平成30年3月卒業予定の学生を対象に、就職担当を務めさせていただきました。学部生については、第一部電気電子工学科の158名、第二部電気情報工学科の電気電子分野の3名を対象としました。博士前期課程の大学院生の大部分は、平成28年4月の学科改組・大学院改組後に進学した第1期生であり、電気電子分野に関係した研究室に所属する電気・機械工学専攻の106名、物理工学専攻の11名、情報工学専攻の9名を含む全127名を対象としました。博士後期課程は改組前の機能工学専攻の2名が対象で、計287名の進路のお世話をさせていただきました。例年同様、学部生は進学希望者が多く、3月末時点で進学者123名、就職33名という状況です。一方、博士前期課程の大学院生も就職希望者が多く、就職125名、進学者1名という状況です。博士後期課程の大学院生は1名が就職しました。進路未定者が数名残っていますので、今後もフォローしていく予定です。

求人企業・業種については、改組前の学科や大学院専攻と改組後の電気電子分野に関係する大学院専攻で大きな変化は無く、昨年引き続き売り手市場と呼ばれる状況の中、電機メーカー、自動車関連メーカー、電力関連会社など約630社から求人を頂きました。特に

近年の女性活躍社会という政策の下、女子学生に対する積極的な採用姿勢が感じられました。選考スケジュールについては昨年度と同様、会社説明会が3月1日解禁、選考が6月1日解禁で進められ、学生側に大きな混乱も無く、比較的スムーズに進んだと感じています。しかし、昨年度から導入が進んだジョブマッチングを採用する企業が増えてきていることから、個人的な所感ながら、学校推薦という制度の再考を促されているように感じています。

ジョブマッチングとは、学生推薦を希望する学生に対し、学校推薦取得前にその希望先企業が学生とマッチング面談等を行うものです。昨年度の就職担当である曾我先生も書かれています。マッチングが成立した場合に学校推薦となりますので、成立すればほぼ合格となります。おそらくですが、希望者多数の場合、大学側で何らかの選抜を実施することになる学校推薦取得前ですので、企業側にとっては多くの学生と面談でき、ミスマッチの場合、比較的気兼ねなく不合格にできるというメリットがあるかと思われます。一方、学生側にとっては不合格が比較的早期にわかるため、速やかに第二希望企業への切り替えができるなどメリットがあります。大学の1つのアウトプットは、学生に出来る限り自分に合った企業に入社してもらい、活躍してもらって企業の成長発展に貢献していただくことですから、その意味ではジョブマッチングは良い制度です。しかし一方で、仮に希望した多くの学生の全てがマッチング成立した場合、多くの学生が偏って1社に入社するということとなります。本学は国から税金の一部によって賄われる運営費交付金によって教育研究を実施している国立大学です。それを踏まえ、特に電気電子分野では、出来る限り多様な企業で卒業生に活躍してもらうことを理想としていることから、理想に近づけるような学校推薦制度の工夫が必要と個人的には感じています。

ジョブマッチングを採用する企業の増加とともに、インターンシップの導入企業も増えてきています。学生側にとっては、志望している企業または業種での就業体験ができ、自分に合った企業・業種の探求に非常

に有意義でしょう。また、本学は実学教育を重視しており、期間などに条件は付きますが、インターンシップに参加することで大学／大学院の単位としても認定される点もメリットです。企業側にとっては、求人票では表すことのできない実際の企業活動や業務形態について多くの学生に体験して知ってもらうというメリットがあります。両者に大きなメリットのある制度ですから、学生の皆さんには積極的に参加していただきたいと思いますが、インターンシップには少なからずジョブマッチング的な要素もありますので、心して臨んでいただければと思います。

末筆となりますが、ご支援をいただきましたOB/OGの方々をはじめとする関係者皆様に厚く御礼申し上げます。本年度の反省を次年度の就職担当に引き継いでおりますが、学生にとって、企業にとって、そして大学としてより良い制度になるように改善してまいりますので、引き続きご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

**情報工学教育類 就職担当 加藤昇平 (EJh5)**

平成 29 年度は、情報系の大学院修士学生 119 名、第一部学部学生 168 名、第二部学部学生 2 名の計 289 名を担当しました。情報系に対する求人は 434 社で、そのうち 333 社から推薦枠による求人をいただきました。私は就職担当として 125 社と面談しました。来訪者のなかには OB/OG の方も多く、学生の進路選択においても本学卒業生の皆さまから多くのご支援を受けていることを実感しました。ビックデータ解析、IoT、ディープラーニングなどに象徴される昨今の AI ブームの影響もあろうかと思いますが、物流や建築など情報系としてはこれまで馴染みの薄い業界も含めて多種多様な企業から求人をいただきました。なかには、今年から初めて本学情報工学専攻・教育類に学校推薦による求人を出していただいた企業もいくつかあり、情報分野に対する産業界からの高いニーズと期待を感じました。このように、求人数は学生数に比べて十分に多く、29 年度も選択肢が十分にあって学生にとって恵まれた状況だったと言えます。おかげさまで、ほぼ 100%に近い進路決定率を今年も維持することができました。

昨年度に引き続き就職活動の解禁日は 3 月 1 日でしたが、これに先立ち年明け早々から OB/OG の皆様による研究室訪問と働き方・業界紹介の機会を多くご提供いただきました。加えて、電影会が主催された卒業生と学生の懇談会 (H29. 3. 17 開催) では、大変多くの OB/OG の方々にご参加いただきまして、学生たちの進路選択に大いに参考になっていることを肌で感じました。中京地域のものづくり産業を中心とした中部経済の好況と、少子化にともなう新卒人材の不足から、就職戦線は売り手市場が続いておりますが、とりわけリケジョの風は順風満帆で、学校推薦に女子枠を別に設けるとおっしゃる企業も少なからずあり、女子学生には選り取り見取りの状況でした。また、印象に残ったのが留学生の就職状況の躍進です。一昨年までは、留学生の就職活動は比較的苦戦する傾向にあったと聞いておりましたが、私が担当した昨年は皆が順調に活動を進め、日本人学生でも羨むような大手メーカーに次々進路を決定してゆきました。

経団連会員企業の申合せによると、3 月 1 日に会社説明などの広報活動、6 月 1 日に面接などの採用選考が解禁とされていますが、実際には、1 日型のインターンシップによる就業体験やワークショップなどが各企業により年明けから活発に実施されており、3 月末や 4 月早々に早々と内々定を決めてくる学生も多く、学生の就職活動期間がここ数年前に比べて明らかに短くなったように思います。学生の本分である学業や卒業/修士研究に集中できる期間が確保できるという点で歓迎できることと思います。就職担当の立場としては、学生諸君に学校推薦による応募を勧めておりますが、企業ごとの学校推薦の捉え方が徐々に多様化しているように感じています。企業ごとに微妙な違いを含みながら、ジョブマッチングによる選考と学校推薦による選考がミックスされたような選考制度が定着しつつあるように感じました。いずれにせよ、企業側にも学生側にも双方にメリットが得られるような選考制度になることが良いことだと思います。就職担当は年度ごとに交代しますので、例年どおり、知り得た知見はしっかりと次年度に引き継ぎ、就職活動を巡る変化にしっかり対応で

---

---

きる体制を、これからも維持してまいります。

末尾となりましたが、ご支援をいただきましたOB/OGの方々をはじめとするお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## ＜寄稿原稿＞ 人生、まだ、これから 国際技術コンサルタント 前田哲男 (E32)

私は、83才であるが、“I am 83 years young (not old)”と自称。堅物が多い日本人は苦笑するが、外国人は、“ニヤリ”と破顔一笑。この一言で、会話が弾む。ついでに言うと、どうして、日本人は、地味な服装が多いのだろうか。男性も女性も、特に高齢者は茶色、灰色などのドブネズミ色が多い。これに対して、特に外国人の女性は赤、黄、緑などの原色のドレスが多く、まるで、花園を歩いているようだ。同じ価格なら、原色のほうがよい。ちなみに、私の上着は、いつも白。これは、パーティーの会場で、私を見つけやすくするための工夫である。ただし、いかに派手好みであっても、蝶ネクタイだけは、よしたほうがよい。ボーイと間違えられるから――。

私のコンサルタントとしての原点は、名古屋の御器所。家が貧しく、生活費と授業料を、アルバイトで稼ぎ出す。朝は新聞配達、昼は家庭教師、夜はキャバレーのボーイ。北向きの窓が一つだけの下宿で、自炊生活。日に一度だけ、学食で、人が作ってくれた、素うどんを食べる。そのうまいこと！実家から通学している人には、その味は、分からない。電気工学を学びながら、ラジオも扇風機もなく、最低の生活を送る私だったが、貧しくても、自立する喜びを持ち、将来の夢は抱いていた。一年生の頃から大学の研究室に出入りし、当時、実験放送だった、テレビの受像機を組み立て、勉強する。4年生になった、ある日、大学の掲示板に、釘付けになる。“夏休みを利用した実習”の案内だ。いまでいう、インターン。会社は町工場で無名だが、60年以上も前に、よくぞ企画したものだと、いまだに感心する。給料は支給されないが、交通費は出し、古い社員寮に入居させ、生活を保証。赤貧の身には極楽で、社会人としての生活を体験するのに、絶好のチャンス！私

は、飛び上がった。当時の家電業界は、ラジオ放送の最盛期で、テレビ放送の開始を目前にして、機運が高まっていた。仕事に必要ななら、給料の何倍もする、測定器を、ポンと購入。いつの間にか、私は、実業の世界に引きずり込まれていた。

工場の幹部に勧められて、戸惑うことなく、その会社に入社。会社の創業者に、外国人の専属の通訳がいて、その夫人に英会話を教わる。製品を海外へ一台も輸出していない時代に、なんと先見の明のあることだろうと、いまだに感心する。奇跡は、まだ、これから。会社が、海外で、テレビ受像機を組み立てるという事業に乗り出し、ただ一人、英語を話せる技術者の私が、出張を命じられる。話は、まだ、続く。海外のテレビ工場で、お雇いの、第三国籍の技術コンサルタントと出会い、自分もこのような仕事に就きたいと、思い立つ。それから、十数年が経過し、ようやく、私が、技術コンサルタントとして独立。英会話の先生が、私の将来を祝福してくれた。言うことが違う。コンサルタントとして、業界のため、その会社のためにも、協力して欲しいと――。これを太っ腹という。

時代は変わっても、社会の必要性は、ますます高まりつつある。たとえば、若い技術者諸君には、内外の多国籍企業で、インターンを体験して欲しい。長期間、現場で働いていると、会社も本人も、ネコを被ることができず、互いに裸の付き合いができ、その結果、いわゆる、就職の“ミス・マッチ”も解消。必要により、国際ビジネスで経験豊富な私が相談に乗り、助言。いまからでも、遅くはない。日本は高齢社会に突入し、健康寿命が、80才を超えている。その反面で、認知症が増え、大きな社会問題になっている。人間の心身は、機械や装置とは異なり、使わないと、油が切れ、錆びる。負荷をかけ過ぎて、身体を壊してもいけないが、適度の運動は不可欠。このサジ加減が難しい。できれば、早くから楽隠居を決め込まず、いつまでも、カクシャクとして活動し続けて欲しい。なにせ、我々は、“old”ではなく、“young”なのだから――。“やらまいか！”

平成 29 年度事業報告

1. 会合
  - 電影会総会 H29.5.19 NITech Hall
  - 第 1 回役員会 H29.11.20 名工大大学会館
  - 学内幹事会 H29.12.6 名工大大学会館
  - 第 2 回役員会 H30.2.21 名工大大学会館
  - 幹事会 H30.3.22 ホテルオークラレストラン
2. 事業
  - 学生向け講演会
    - (1) H29.12.22  
広島市立大学 講師 谷口 和弘 氏 (EJh15)  
「earable(イアラブル):耳につけるコンピューター」
    - (2) H29.12.8  
日本電気工業会 新エネルギー部 川浦 正人 氏 (Es48)「フィードバック制御と制御機器の設計と・開発について」
    - (3) H30.1.19  
住友電気工業 (株) 伝送デバイス研究所 技師長 勝山 造 氏 (E54)  
「光エレクトロニクス発展とデバイス技術」
  - 新入生向け電影会案内 H29.4.3
  - 卒業祝賀会 H30.3.26
  - 電影会会誌発行(第 24 号)H29.4
  - 大学行事補助 2件
  - 電影会賞贈呈 H30.3.26
  - 卒業生と学生の懇談会 H30.3.16

平成 29 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,730,042	通信費	685,207
入会金	1,260,000	印刷費	907,784
工業会より	70,000	事務費	2,757
利息	12	会合費	362,880
雑収入	796,500	学生行事補助	925,194
寄付金	1,103,940	大学行事補助	10,000
		総会補助	137,020
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	9,699
		雑費	7,104
		人件費	316,000
		繰越金	4,446,849
合計	7,960,494	合計	7,960,494

平成 30 年度事業計画 (案)

1. 会合
  - 電影会総会 ○役員会
  - 幹事会 ○学内幹事会
2. 事業
  - 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
  - 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
  - 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
  - 名古屋工業会との連携 ○名簿整備

平成 30 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,446,849	通信費	680,000
入会金	1,275,000	印刷費	800,000
工業会より	70,000	事務費	10,000
利息	100	会合費	350,000
雑収入	800,000	学生行事補助	950,000
寄付金	1,100,000	大学行事補助	30,000
		総会補助	100,000
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	10,000
		名簿整備費	100,000
		雑費	10,000
		人件費	320,000
		繰越金	4,181,949
合計	7,691,949	合計	7,691,949

平成 30 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎(E13)  
 犬飼英吉(E28)  
 神谷昌宏(E36)  
 中村光一(E41)  
 北村正(Es48)
- 会長 川村信之(E53)
- 副会長 木下清彦(E36) 川越英二(E47)  
 安藤幹人(E57) 森田良文(E62)
- 理事 岩塚真之(E56) 山中清(J52)  
 内匠逸(Es57) 三宅正人(E60)
- 監事 市原正樹(E48)
- 庶務理事 廣瀬光利(E50) 伊藤孝行(Ih7)
- 会計理事 酒井公孝(J54) 前田佳弘(EJh16)
- 編集理事 加藤慎也(EEh20) 鳥山昌幸(Ih18)
- 庶務補佐 加藤正史(EJh10)
- 会計補佐 立岩佑一郎(Ih14)

## 学位取得者一覧

### 情報工学専攻

平成 30 年 3 月 課程修了者 (授与日:平成 30 年 3 月 26 日)

氏名	論文題目	主査教員名
YAN QINGYUAN	Novel Management of BESS in Voltage and Unbalance Factor Control of PV Connected Distribution System	青木 睦
SHI QINGSONG	Comparison theorems on trajectory-harps and the ideal boundary of a Hadamard kaehler manifold	足立 俊明
林 里奈	触感に着目したストレス緩和効果を引き出すロボットの開発	加藤 昇平
藤田 悠	不平衡配電系統における電力品質改善に関する研究	青木 睦
LAKSMITA RAHADIANI	Recovering 3D Information in Scattering Media	佐藤 淳

### 機能工学専攻

平成 29 年 9 月 課程修了者 (授与日:平成 29 年 9 月 29 日)

TONG BAYINGAERDI	Effects of annealing on properties of electrochemically deposited Ni-O thin film	市村 正也
------------------	--	-------

平成 30 年 3 月 論文申請者 (授与日:平成 30 年 3 月 26 日)

二宮 博樹	キラル結晶構造をもつ希土類金属間化合物の磁性	大原 繁男
間瀬 駿	Si 基板上 GaN 系デバイスの欠陥解析と縦型化に関する研究	江川 孝志
山岡 優哉	Si 基板上 AlGaIn/GaN HEMT における結晶品質と電気特性の関係に関する研究	江川 孝志
臼井 正則	車載パワーデバイスの信頼性に関する研究	加藤 正史

### 創成シミュレーション工学

平成 30 年 3 月 論文申請者 (授与日:平成 30 年 3 月 26 日)

沢田 慶	A statistical approach to speech synthesis and image recognition based on hidden Markov models	南角 吉彦
------	--	-------

## 入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

### 平成 30 年度入学者選抜状況

#### 電気・機械工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	20	110	70
志願者数	59	412	549
受験者数	59	398	263
合格者数	22	113	91

#### 情報工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15	85	45
志願者数	46	264	315
受験者数	46	252	167
合格者数	16	87	55

#### 第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	37	40
受験者数	35	34
合格者数	6	6

#### 編入学・転入学 (一部:3年)

( )は内数で転入学数を表す

	電気・機械工学科 (電気電子分野)	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	32(1)	15(1)
受験者数	29(1)	13(1)
合格者数	9(1)	5

#### 電気情報工学科 (二部:一般選抜前期日程)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	37	33	6

大学院・電気・機械工学専攻(博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	54	84	若干名
志願者数	58	202	14
受験者数	58	198	14
合格者数	57	169	5

大学院・情報工学専攻(博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	35	75	若干名
志願者数	35	112	23
受験者数	35	109	21
合格者数	33	91	9

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
9	1	1	1

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
7	2	2	2

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2	2	2	2

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	8	8	8

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	2	2	2

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期3次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	1	1	1

平成29年度卒業生就職状況

	電気電子工学科			情報工学科		
	大学院※	一部	二部	大学院※	一部	二部
卒業生	123	150	3	131	155	2
進学者	1	117	2	3	111	1
研究生	0	0	0	0	0	0
一般企業	119	31	0	124	37	1
公務員	0	1	0	1	4	0
教員	0	0	0	1	0	0
帰国(留学生)	0	0	0	0	0	0
休学他	5	7	1	6	11	0
未定者	3	1	1	2	3	0

※電気・機械工学専攻(電気電子分野)・創成シミュレーション工学専攻を含む

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。平成29年度の実賞者は以下の方です。

氏名, 所属
鈴木 大和, 第一部電気電子工学科
宗本 侑也, 第一部電気電子工学科
石川 由祐, 第一部電気電子工学科
佐藤 友哉, 第一部電気電子工学科
坂上 拓哉, 第一部電気電子工学科
黒田 英太郎, 第一部電気電子工学科
徳永 高佳, 第一部電気電子工学科

氏名, 所属
島田 基樹, 第一部情報工学科
YOON SEUNG YONG, 第一部情報工学科
佐竹 寛弥, 第一部情報工学科
相良 陸成, 第一部情報工学科
方 慧宜, 第一部情報工学科
中村 奎太, 第一部情報工学科
丹田 尋, 第一部情報工学科
竹内 なつみ, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会B賞(2018.1), 新二日市裕希, 電気・機械工学専攻, 青木睦准教授
平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 奨励賞(2018.1), 阿部拓哉, 情報工学専攻, 石橋豊教授
平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会B賞(2018.1), 木下敬文, 電気・機械工学専攻, 岩崎誠教授
平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会B賞(2018.1), 黒瀬博也, 電気・機械工学専攻, 岩崎誠教授
IEEE EMC Society Japan Joint / Sendai Chapters Student Award(2018.3), 村瀬雄亮, 電気・機械工学専攻, 王建青教授
平成28年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞(2017.6), 堀池直登, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授

平成 29 年度名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰(学術活動部門)(2018.2), 堀池直登, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP2018) Student Paper Award (2018.3), 堀池直登, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
平成 29 年度電子情報通信学会東海支部卒業研究発表会口頭発表部門優秀賞 (2018.3), 栢田佳大, 電気電子工学科, 岡本英二准教授
IEEE GCCE 2017 Outstanding Paper Award, IEEE GCCE 2017 (2017.10), 林里奈, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 15 回情報学ワークショップ優秀研究発表賞 (2017.11), 鈴木晃平, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2017.11), 鈴木晃平, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2017.11), 内藤昂佑, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 15 回情報学ワークショップ優秀研究発表賞 (2017.11), 中野智文, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2017.11), 中野智文, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学情報科学フロンティア研究院シンポジウム優秀ポスター発表賞 (2017.11), 福田和彰, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 18 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会優秀講演賞 (2017.12), 寺部和紀, 加藤瑛樹, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 学長賞 (2018.2), 林里奈, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2018.2), 鈴木晃平, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
情報処理学会第 80 回全国大会 学生奨励賞 (2018.3), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
電子情報通信学会 エレクトロニクスソサエティ 電子デバイス (ED) 研究専門委員会 論文発表奨励賞 (2017.5), 浅田貴斗, 電気・機械工学専攻, 加藤正史准教授
第 20 回情報論的学習理論ワークショップ 学生優秀プレゼンテーション賞 (2017.11), 吉田知貴, 情報工学科, 鳥山昌幸准教授
日本知能情報フuzzy学会論文賞 (2017.9), 奥村健太, 情報工学専攻, 北村正教授, 酒向慎司准教授
電気学会優秀論文発表賞 電気学会モータドライブ/回転機/自動車合同研究会 (2018.3), 磯部啓介, 電気・機械工学専攻, 小坂卓教授
2017 IEEE CAMA Student Paper Award, 2017 IEEE Conference on Antenna Measurements and Applications (2017.12), 池上富大, 電気・機械工学専攻, 榊原久二男教授
第 20 回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2017) MIRU 学生奨励賞 (2017.8), 榊原直紀, 情報工学専攻, 佐藤淳教授, 坂上文彦准教授
第 20 回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2017) MIRU 学生奨励賞 (2017.8), 野々目朋晃, 情報工学専攻, 佐藤淳教授, 坂上文彦准教授
学生研究奨励賞 名古屋工業大学基金 (2018.2), LAKSMITA RAHADIANI, 情報工学専攻, 佐藤淳教授, 坂上文彦准教授
情報処理学会第 80 回全国大会 学生奨励賞 (2018.3), 荒川智哉, 情報工学専攻, 白松俊准教授
Best Presentation Award at SAMCON2017, IEEE International Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization (2017.3), 千代健, 電気・機械工学専攻, 関健太准教授
平成 28 年度電気学会産業応用部門大会 優秀論文発表賞 部門表彰 (2017.8), 藤原匠汰, 電気・機械工学専攻, 関健太准教授
平成 29 年度電気学会産業応用部門論文賞 (2017.8), 鈴木一馬, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
名古屋工業大学 副学長表彰 (2018.2), 奥田雅紀, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
名古屋工業大学 学長表彰 (2018.2), 鈴木一馬, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
情報論的学習理論と機械学習研究会 研究会賞 (2017.11), 金森研太, 情報工学専攻, 竹内一郎教授
情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞 (2017.5), 廣田杏珠, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2017.6), 間下恵介, 創成シミュレーション工学専攻, 津邑公暁准教授
第 15 回 (2017 年春季研究発表会) 学生優秀発表賞 日本音響学会 (2017.9), 市川裕詞, 創成シミュレーション工学専攻, 徳田恵一教授
2017 年度音声研究会学生ポスター賞 電子情報通信学会 (2018.1), 船戸涼平, 情報工学専攻, 徳田恵一教授
第 16 回 (2017 年秋季研究発表会) 学生優秀発表賞 日本音響学会 (2018.3), 吉村建慶, 創成シミュレーション工学専攻, 徳田恵一教授
IEEE AP Society Nagoya Chapter and MTT Society Nagoya Chapter Student Award (2017.11), 山脇優一, 電気・機械工学専攻, 平山裕准教授
電子情報通信学会東海支部卒業研究発表会口頭発表部門 優秀卒業研究発表賞 (2018.3), 石川阿香里, 情報工学科, 福嶋慶繁准教授
Best Poster Award, International Conference, SPIE Medical Imaging (2018.2), 河村直輝, 情報工学専攻, 本谷秀堅教授
第 36 回日本医用画像工学会大会 大会奨励賞 (2017.7), 河村直輝, 情報工学専攻, 本谷秀堅教授
FRIMS (Frontier Research Institute for Materials Science) Award 優秀賞 (2017.5), 成瀬克芳, 物理工学専攻 (電気電子工学科卒), 壬生攻教授
Best Presentation 賞 International Conference on Mechanical, Electrical and Medical Intelligent System 2017 (2017.11), 杉山広樹, 電気・機械工学専攻, 森田良文教授
計測自動制御学会中部支部賞学業優秀賞 (2018.3), 野村正和, 電気電子工学科, 森田良文教授
第 35 回電気設備学会全国大会 発表奨励賞 (2017.12), 郷頭宣, 電気・機械工学専攻, 安井晋示教授

## 電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。平成30年2月末までの寄付分を掲載しております。

昭14 多田良之  
 昭16 杉山貞夫  
 昭18 祖父江晴秋  
 昭20 伊藤博英  
 昭22 伊藤季彦 市川儀男 玉田博二 中村正雪  
 三木忠夫 村上庄之介  
 昭23 大井一典 瀬尾孝之 中井二夫 中島昭一  
 古川氏典 牧野和正 水谷末一 分部力  
 昭24 愛川文雄 井上高明  
 昭25 青山春彦 泉館昭則 荻野孝 梶浦孝一  
 後藤正 白井光雄 須田馨 林文雄  
 昭26 沖辻寛 兼子共明 小澤智士 小林繁利  
 阪口貢 原行一 吉野毅  
 昭28 嶋田宏 杉岡太郎 西澤明 日比野正憲  
 山田正 山田速水  
 昭29 伊藤英輔 太田耕二 岡村正孝 國枝誠昭  
 國島尤 酒井兼夫 志賀擴 都筑登 渡邊康男  
 昭30 加藤規 不破幸雄  
 昭31 梅村英三 大嶋光朗 後藤領次 鈴木敏孝  
 松本義幸  
 昭32 植田俊男 岡野修 水谷安郎 三輪純一郎  
 森千鶴夫  
 昭33 木村隆信 木村欽哉 寺社下政美 瀬口令夫  
 寺林康治 中谷恭朗 藤田正浩  
 昭34 芦崎重也 草野洋 鈴木倭 藤井壽崇 山田要  
 昭35 梅野正義 大谷健嗣 岡田昌孝 後藤秋生  
 藺田耕一 中西和義  
 昭36 安藤元吉 木下清彦 黒田和助 西村秀夫  
 細野猪三雄 馬路才智 増田勝一 丸市次郎  
 昭37 伊藤信大 久保村徳太郎 野田昭 水谷欽彌  
 昭38 小田切啓幸 是木修一 田口守彦 中谷光男  
 八代弘  
 昭39 岡田守弘 國枝隆生 下前哲夫 田村英也  
 水澤健一 吉田嶽彦  
 昭40 大西旻 小澤容  
 昭41 石井光雄 宇野啓一 梶田省吾 神本勝巳  
 丹下正彦 八神正彦 中村光一 前越久  
 昭42 阿江勉 青木猛 伊藤洋太郎 宇佐美忠男  
 衛藤邦彦 川島征一郎 小島一男 新欽介  
 高津重雄 種村雄二 中山静夫 松岡充宏  
 水野重雄 吉村洋典  
 昭43 稲村光夫 鈴木清明 重見健一 堀尾猛  
 牧野正俊 松原英章  
 昭44 柴田俊夫 菅野宗二 佐藤恒夫 田邊郁夫  
 昭45 石割三千雄 千田健治 加藤友康 須藤章夫  
 松崎敦志 中島豊四郎  
 昭46 沖靖彦  
 昭47 赤塚隆夫 加藤元三郎 川越英二 田島耕一  
 山内一昭  
 昭48 青井利樹 市原正樹 蓮田史則 川端康己  
 北村正 中島正敏 三木敏裕 米山高志  
 電子工学科昭48卒一同  
 昭49 朝倉吉隆 内多重勝 須藤敏雄 藤井義磨郎  
 昭50 浅井良一 伊藤春彦 萩原義也 浜岡重男  
 廣瀬光利 眞鍋和人 丸山実

昭51 吉村元  
 昭52 内海和彦 並川理 宮脇誠 山口好孝 山中清  
 昭53 稲永俊二 川村信之 木村準  
 昭54 大江準三 大前義信 酒井公孝 水野守明  
 村上仁志 吉田誠治  
 昭55 岩崎政彦  
 昭56 浅羽哲朗 石橋豊 岩塚真之 嶋田宏 西山寿美  
 萩原秀和 林千尋 森島保 山口初一  
 昭57 青柳昌宏 安藤幹人 内匠逸 曾我哲夫  
 高橋清 谷本弘二 野口敏彦  
 昭58 松尾啓志  
 昭59 徳田恵一  
 昭60 三宅正人  
 昭61 塚田敏彦  
 昭62 小栗宏次 羽賀政雄 森田良文  
 昭63 鎌田和弘  
 平元 林敬 林宏明  
 平6 小坂卓  
 平7 伊藤孝行 松井俊浩  
 平10 佐藤宣夫 布目敏郎  
 平11 南角吉彦  
 平12 竹尾淳  
 平13 青山聡志 原田佳幸  
 平14 村瀬真吾  
 平15 川原淳平  
 平16 前田佳弘  
 平21 佐藤匡泰 柴田将之 本種和弘  
 平29 林晃大

## 学科近況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

平成30年度電気・機械工学教育類・専攻  
 教育類長/専攻長 市村 正也 教授  
 副教育類長/専攻長 平田 晃正 教授  
 (電気電子分野)

平成30年度情報工学教育類・専攻  
 教育類長/専攻長 伊藤 孝行 教授  
 副教育類長/専攻長 齋藤 彰一 教授  
 加藤 昇平 教授  
 本谷 秀堅 教授

平成30年度就職担当  
 電気電子工学教育類 岩崎 誠 教授  
 情報工学教育類 李 晃伸 教授  
 酒向 真司 准教授

◎ 平成29年度退職教職員  
 電気電子工学教育類 岩波 保則 教授(定年退職)

◎ 平成29年度新任教職員  
 電気電子工学教育類 伊藤 孝弘 助教

## 総会通知

平成30年度電影会総会並びに懇親会のお知らせ

日時: 平成30年5月18日(金)

17時00分~20時30分

会場: 名古屋工業大学

<総会・講演会> NITech Hall (新講堂)

<懇親会> 大学会館1階 生協大食堂

<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

会次第:

16時30分 総会受付開始 (NITech Hall 入口)

17時00分 総会

17時30分 講演会 (NITech Hall)

演題: 「大丈夫か我が国の将来  
-危惧される科学技術立国-」

講師: 名西 やすし 様

(立命館大学 グローバルイノベーション

研究機構特別招聘教授, E44)

18時30分 懇親会 (大学会館1階 生協大食堂)

懇親会会費: 5,000円 (一般) 2,000円 (学生)

(当日会場受付で頂きます)

なお、昭和43年3月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満50年をお祝いいたしましてご招待させていただきます(会費無料)とともに、ささやかではありますが、記念の品をお贈りいたします。

今年も学科長、就職担当教授をはじめ多数の教員、博士後期課程(ドクターコース)の留学生を含む在学生も出席予定です。皆様お誘い合わせの上のご出席をお待ち致しております。

## 関西支部からのお知らせ

当支部では毎年7月に支部総会を開催しています。今年も昨年同様、以下の予定で計画中です。

日時: 平成30年7月7日(土) 18時ごろから

場所: メルパルク大阪 (新大阪駅から西へ徒歩約4分)

皆様お誘いの上ご参加いただきますようお願いいたします。

連絡先は 村上仁志 (Es54) 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-131-16

メールの方は [kansai@denei.jp](mailto:kansai@denei.jp)

なお 昨年11月の工業会大阪支部総会は電影会関西支部担当で、多数ご参加いただき盛大に開催できました。また古野電気専務の小池宗之氏 (Es60) には特別講演をいただきました。この場をお借りして関係者の皆様に御礼申し上げます。

## 名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会平成30年度定期総会及び会員総会が、平成30年5月19日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしく願いいたします。

## 電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしく願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口 : 2000円

郵便振込先: 00860-9-19618 電影会

## 名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト (<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

## 投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1ページ約1600字です。

編集委員 森田良文 (E62) 加藤慎也 (EEh20)

伊藤孝行 (Ih7) 烏山昌幸 (Ih18)

前田佳弘 (EJh16)

発行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

Tel: (052) 735-5459 (ながれ領域事務室)

Tel: (052) 735-7968 (事務:伊藤庶務理事)

Fax: (052) 735-7407 (事務:伊藤庶務理事)

E-mail: [office@denei.jp](mailto:office@denei.jp) URL: <http://www.denei.jp/>

## 訃報

本学元学長武藤三郎先生にはご病気ご療養中のところ2月27日4時50分ご逝去されました。98才。先生には昭和53年11月~59年10月学長、それまでは電気工学科、情報工学科教授として教育研究にご尽力されました。ここに心から哀悼の意を表するとともに、謹んでお知らせいたします。